

教員になりたいみなさんへ



平成 30 年度入学試験受験者用 Q & A

上越教育大学教職大学院

<http://www.juen.ac.jp/kj/>

上越教育大学教職大学院

検索

平成 30 年度入学試験日程とお問い合わせ先

前期募集	出願期間：平成29年 7月13日(木)～ 7月26日(水)必着	試験日：平成29年 8月24日(木)
中期募集	出願期間：平成29年10月18日(水)～ 10月27日(金)必着	試験日：平成29年11月25日(土)
後期募集	出願期間：平成30年 1月25日(木)～ 2月 2日(金)必着	試験日：平成30年 3月 2日(金)
試験内容	筆記試験（教育実践に関する小論文） および 口述試験	

上越教育大学教職大学院へのお問い合わせは、こちらまでお気軽にどうぞ。

専攻長 廣瀬 裕一(hirose@juen.ac.jp) コース長 西川 純(jun@iamjun.com)

教員になりたいみなさんへ

Q.1 教職大学院には、教員採用試験で有利な制度があるのは本当でしょうか？

A.1 大学推薦制度が充実しています。

この推薦制度では**1次選考試験免除などの優遇措置**が受けられます。**教職大学院は、大学推薦が受けやすくなっています。教職大学院のみの推薦制度がある教育委員会や教職大学院だけ人数無制限とした教育委員会もあります。**本学教職大学院の場合、定員の半数近くを占める現職院生は、教員採用試験を受けません。その分、学卒院生が推薦される可能性が高くなります。

平成29年度実施教員採用試験での本学教職大学院への推薦枠は、下の表のとおりです。(平成29年5月15日現在)

平成29年度実施公立学校教員採用試験における大学推薦実施一覧

対象	実施機関	募集職種等	推薦人数	1次選考の対応	2次選考の対応
教職大学院のみ	埼玉県	すべての出願区分	1名	第1次試験が免除	一般受験者と同じ日程・内容
	東京都	小学校全科	1名	書類選考により第1次選考免除が決定	個人面接・実技
	神奈川県	全校種等・教科	人数枠なし	書類選考により第1次選考免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
	横浜市	小学校	各1名	書類選考により第1次選考試験の教科専門試験及び一般教養・教職専門試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
		中学校・高等学校(数)			
		中学校・高等学校(理)			
	相模原市	小学校	人数枠なし	書類選考により第1次試験のうち教科専門試験及び一般教養・教職専門試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
		中学校(国・社・数・理・音・美・保健・技・家・英)			
	新潟県	小学校・中学校・特別支援学校	人数枠なし	書類選考により第1次検査免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
	新潟市	すべての出願区分	人数枠なし	第1次検査の筆記検査(I・II)免除し、特別選考面接等を実施	一般受験者と同じ日程・内容
	愛知県	全校種等	人数枠なし	書類選考により第1次試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
	京都府	小学校	職種・教科ごとに2名	書類選考により第1次試験のうち筆記試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
		中学校(数・理)			
		高等学校(数・理)			
	京都市	小学校(英語教育推進コースを含む)、中学校(数・理・技)	2名(中、小英語コースを推薦の場合は各1名加算)	書類選考により第1次試験免除が決定(個人面接あり)	一般受験者と同じ日程・内容
	大阪府	小学校	3名	書類選考により第1次選考及び第2次選考免除が決定。第3次選考は一般受験者と同じ日程・内容	
		小中いきいき連携	2名		
		中学校(数・理・技)	各教科2名		
		高等学校(数・理[物・化・生・地]・工[機・電])	各教科2名(ただし工業は各科目2名)		
	大阪府	中学校(数・理・技・英)	各教科2名	書類選考により第1次選考免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
	大阪府 豊能地区	小学校	2名	書類選考により第1次選考のうち筆答テスト免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
		中学校(美・技・家)	各教科1名		
	堺市	小学校・特別支援学校小学部	1名	書類選考により第1次試験のうち筆答試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
中学校・特別支援学校中学部(美・家)		各教科1名			
中学校・特別支援学校中学部(数・技)		各教科2名			
教職大学院を含む全学	埼玉県	小学校	4名	第1次試験が免除	一般受験者と同じ日程・内容
		中学校(理・技)	各教科1名		
		高等学校(数・理)			
	千葉県・千葉市	中学校(技) ※ちば!チャレンジ(中学校技術第二)推薦	1名	小論文及び集団面接	一般受験者と同じ日程・内容
	さいたま市	小学校	1名	第1次試験が免除	一般受験者と同じ日程・内容
	東京都	小学校全科	1名	書類選考により第1次選考免除が決定	個人面接・実技
		小学校全科(理科コース)	1名		
		小学校全科(英語コース)	1名		
		小学校	2名	書類選考により第1次選考免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
	神奈川県	理科、英語に優れた力量をもつ小学校教員	人数枠なし		
		中学校英語	1名		
		全校種等・教科 ※身体障害者	1名		
	横浜市	小学校	各1名	書類選考により第1次選考試験の教科専門試験及び一般教養・教職専門試験免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容
		小学校(英語に関する一定の級・スコアを有する者)			
		中学校・高等学校(数)			
		中学校・高等学校(英)			
	川崎市	小学校	1名	書類選考により第1次選考免除が決定	一般受験者と同じ日程・内容【ただし、第1次試験日に小論文Bを受験(第2次試験扱い)】
		中学校(数・理・技・家・英)	各教科1名		
		小学校・中学校(数・理・技・家・英)※CST認定者	1名		
		小学校・中学校(数・理・技・家・英)※身体障害者	1名		
	長野県	小学校・中学校(全教科)	2名	書類審査及び筆記試験(専門教科)	一般受験者(社会人枠)と同じ日程・内容
		小学校・中学校(全教科) ※身体に障害のある者	人数枠なし	書類審査	一般受験者(社会人枠)と同じ日程・内容
	滋賀県	小学校	1名	一般教養・教職教養及び専門教科・科目の免除	一般受験者と同じ日程・内容
神戸市	中学校・高等学校(数・理・技)	教科ごとに2名	書類選考により第1次選考の筆記試験免除	一般受験者と同じ日程・内容	

また、大学推薦以外にも教職大学院修了見込者等を対象とする特例措置が実施されています。

平成29年度実施教員採用試験における教職大学院修了見込者等の特例措置

自治体	選考種別	内容・条件等(申請時期)
秋田県	特別選考	第1次選考試験の総合教養が免除(出願時)
千葉県・千葉市	特別選考	第1次選考試験の教職教養が免除(出願時)
福井県	一般選考(免除申請)	第1次選考試験の一般教養と教職専門が免除。前年度又は前々年度の直近受験時に免除条件を満たし、専修免取得見込の者(出願時)
岐阜県	一般選考(免除申請)	小学校教諭・中学校教諭の第1次選考試験が免除(出願時)

山口県	特別選考	第1次試験の教職専門及び集団面接(討議)を免除(出願時)
福岡県	特別選考	第1次試験は集団討論、集団面接及び実技試験を実施(出願時)
福岡市	特別選考	第1次試験は一般教養、論文、面接、適性検査を実施(出願時)
北九州市	特別選考	第1次試験のうち筆記試験の教職教養が免除(出願時)
長崎県	一般選考(加点点申請)	第1次試験の加点点措置。小学校、中学校、養護教諭のみ(出願時)

このほか、**教員採用試験の合格者が教職大学院等に進学する場合**や**教職大学院在学中に合格した場合**には、以下の表の通り、採用を大学院修了まで延期できるなどの『**大学院在学・進学者に対する特例措置**』も実施されています。

【別表】平成29年度実施教員採用試験における大学院進学者・在学者の特例措置 ※は新設の自治体

名簿登録期間延長の特例措置			
自治体	進学希望の合格者	教職大学院在学者	条件等・(申請時期)
北海道・札幌市	○	○	(出願時)
青森県 ※	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
岩手県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
宮城県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
仙台市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
秋田県	×	○	(合格後)
福島県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
茨城県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
栃木県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
群馬県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
埼玉県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
さいたま市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
千葉県・千葉市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
東京都	○	○	(合格後)
神奈川県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
横浜市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
川崎市	○	○	大学院課程の修了が条件(合格後)
相模原市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
富山県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
石川県	×	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
山梨県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
長野県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
岐阜県	○	○	(合格後)
静岡県	○	○	(出願時)
静岡市 ※	○	○	専修免取得が条件(出願時)
浜松市	○	○	(出願時)
三重県	×	○	(合格後)
滋賀県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
京都府	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
京都市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
兵庫県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
神戸市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
和歌山県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
鳥取県	○	○	(合格後)
島根県	○	○	(合格後)
岡山県	○	○	(合格後)
岡山市	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
広島県・広島市	○	○	在学者については、出願時に受験校種・教科の教員免許を取得していること。(出願時)
山口県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
徳島県	○	○	小学校合格者のみ(合格後)
香川県	×	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
愛媛県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
高知県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
福岡県	×	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
福岡市	×	○	(出願時)
北九州市	×	○	(合格後)
佐賀県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
長崎県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
熊本県	○	○	(合格後)
熊本市	×	○	(合格後)
大分県	○	○	(出願時)
宮崎県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
鹿児島県	○	○	合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
沖縄県	○	○	(合格後)

採用を辞退し、教職大学院修了年次に再受験する場合の特例措置

自治体	合格進学者	教職大学院在学者	内容・条件等(申請時期)
山形県	特別選考	—	第1次選考試験免除(再受験出願時)
新潟県	1次免除	—	最少修了年限の年の第1次検査を免除(出願時)
新潟市	特別選考	—	最少修了年限の年の第1次検査の全てと第2次検査の実技検査を免除(出願時)
福井県	特別選考	特別選考	適性検査、個人面接、レポートによる選考。合格校種・教科の専修免取得が条件(出願時)
愛知県	特別選考	特別選考	第2次試験口述試験(集団討議・個人面接)のみ。合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
名古屋市	特別選考	特別選考	2次試験の個人面接のみ。小学校、中学校合格者が対象。教科の専修免取得が条件(合格後)
大阪府	特別選考	特別選考	第3次選考(面接)のみ。合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
大阪市	特別選考	—	第2次選考の面接テストのみ。小学校、中学校合格者が対象。教科の専修免取得が条件(合格後)
堺市	特別選考	特別選考	2次試験の面接のみ。合格校種・教科の専修免取得が条件(合格後)
奈良県	特別選考	特別選考	第2次試験の集団面接(討議)及び個人面接(模擬授業を含む)のみ。小学校合格者が対象。専修免取得が条件(合格後)

Q.2 中学校や高等学校の教員免許状しか持ってないのですが…

A.2 本学の教職大学院は、教員免許状(一種免許状)を1つでも持っていれば受験できます。

詳しくは、学生募集要項をご覧ください。

Q.3 教職大学院では、教員免許状を取得できますか？

A.3 本学の教職大学院は、**教員免許状が取得できます。**

幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭**専修免許状が取得できます**。専修免許状の所要資格を得ようとする場合には、該当校種の一つ免許状(中学校・高等学校は、その免許教科)が必要です。

Q.4 教育職員免許取得プログラムの手続きについて詳しく教えてください。

A.4 出願時に**手続きをすることにより、他校種・教科の教員免許状を取り増しできるプログラム**です。

- 出願時に受講申請して、入試当日に選考を受ける必要があります。
- **追加費用は一切かかりません。**
- 基本的に3年間で取得するようになりますが、単位取得状況に応じて2年間でも十分に修了可能です。

Q.5 教職大学院では、修士の学位を取得できますか？

A.5 学位は、教職修士(専門職)が取得できます。

高度な専門職である教職の実務部分に特化した教職大学院の教育内容により、既存の修士号とは異なる**教職修士(専門職)号**が取得できます。「**専修免許状の取得**」、「**都道府県等の教員採用後の給与の優遇**」はもちろんのこと、「**博士課程受験の基礎資格**」としても、教職修士(専門職)は修士(教育学)と同等に扱われています。

Q.6 教職大学院では、教科教育について学ぶことができますか？

A.6 本学の教職大学院は、教科教育を専門とするスタッフも充実しています。

詳しくは、本学教職大学院のパンフレットやホームページ(<http://www.juen.ac.jp/kj/>)をご覧ください。

Q.7 教職大学院では、現職の先生方と一緒に学べますか？

A.7 本学の教職大学院は、多くの実力ある中堅教員と一緒に学べます。

上越教育大学は、学校現場で中堅教員として活躍している多くの現職の先生方が大学院生(現職院生)として学んでいます。本学の教職大学院では、現職院生と大学を卒業したばかりの院生の割合が、およそ1:1です。実務経験豊富な現職院生と共に学び、語り合うことをとおして本学教職大学院の柱である**協働力を育成**します。

Q.8 教職大学院には、奨学金制度の他に経済的な支援制度があれば教えてください。

A.8 本学の教職大学院には、様々な奨学金制度の他に以下のような制度が整備されています。

- 本学大学院では、教員採用候補者名簿登載期間延長制度を利用して修学する者への**授業料免除(全額・半額)**があります。
- 平成27年度から、厚生労働省による専門実践教育訓練給付金の対象となる講座に指定されました。詳しくは、大学ホームページの「ホーム > キャンパスライフ > 授業料・入学金 > 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)」をご覧ください。